

この子の七つのお祝いに (1982)

メディア 映画

ジャンル ミステリー

製作国 日本

色彩 Color

時間 111分

初公開日 1982/10/09

【解説】

第一回横溝正史ミステリ大賞を受賞した齊藤瀞の同名小説を映画化。大映～ATGで数々の作品を手がけた増村保造が脚本・監督を務め、主にテレビドラマで活躍した松木ひろしが共同で脚本を執筆した。赤を基調とした画面が印象的で、岸田今日子の演技が多くの観客に衝撃を与えた。

ルポライターの母田耕一は、磯部大蔵大臣の私設秘書である秦一毅の身辺を探っていた。だがその矢先、秦の家で働いていたお手伝いが殺されてしまう。手型占いをしているという秦の内妻の青蛾を追う母田は、後輩の須藤に連れて行かれたバーのママゆき子と知り合うが、そのあと何者かに殺害されてしまった。須藤は母田の仕事を引き継ぎ調査を進めるが、青蛾も変わり果てた姿で発見される。やがて須藤は、ゆき子から驚くべき過去を知らされるのだった。

【クレジット】

監督	増村保造
製作	角川春樹
プロデューサー	岡田裕介 中川完治
原作	斎藤瀞
脚本	松木ひろし 増村保造
撮影	小林節雄
美術	間野重雄
編集	中静達治
音楽	大野雄二
助監督	近藤明男
出演	根津甚八 岩下志麻 杉浦直樹 辺見マリ 芦田伸介 岸田今日子 畑中葉子 中原ひとみ 坂上二郎 室田日出男 名古屋章 小林稔侍